



1

**根源的な問い**  
 果たして私の愛する人は、ほんとうに逝ってしまったのか？

“行方不明”者  
 ↓  
 肉体の滅却を確認できない！

「(自分がこれから)自殺するとあの世で母や息子と暮らせないから、誰か崖から突き落として(殺して)くれないかな」  
 「今日は息子と母の一周忌法要。遺体すら見つからないのに一周忌法要をしなければならなくて、正直今も戸惑って受け入れられない自分がいます」  
 「もうすぐ6年か…… 実は、いまだにアナタがもう帰ってこないってことが信じられないよ……」

2

かわり方を問う: 平均的な人間

ケアする側  
 keyword: 寄り添う??  
 その人に寄り添った介護…  
 その人に合わせたケア…

個性性を問いながら、概念自体欧米からの輸入で統一された規格

3

ヒントとしてのキャラ立ち

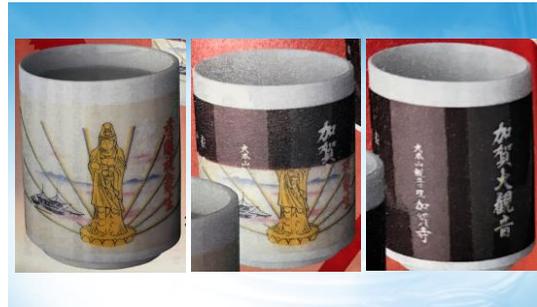
4

5

6



7



8

みうらじゆんの世界

- ・旅の思い出に→寄り添い型=みやげ物  
相手が喜ぶものを=キャラ落ち  
Vs
- ・気になったものを→キャラ立ち型=みやげ物  
相手が嫌がるかも  
奴はいけるな=キャラが立つ(ゆにいーく)

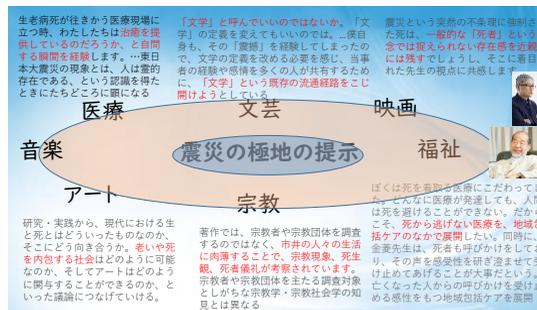
9

2016年 震災から5年経って、「もう震災は終わった」・・・

霊性の震災学  
幽霊の記事(朝日新聞・buzzfeed)  
300万・600万アクセス(社会事件でもようやく100万)

共感のレベルがズれている  
まだ掘り起こしていない圧倒的な事実がある  
↓  
震災を震災だけで閉じている可能性  
↓  
感度をあげる必要性

10



11

災害・社会学  
↓  
医療・芸術・映画・音楽・文芸・宗教etcに共鳴  
一言も言及していないにも関わらず

「金栗さんの専門は震災社会学。一見、医療や介護とはかけ離れて見えるが、共通する点が多いことに驚いた」(鎌田實:『わがままのつながり方』p.174)

人間の深部に突き刺さる  
震災マンガラを通じて全体像を描き出す試み

ツララ式自己反省的漸進法

12



13



14



15



16

多くの人々の共感と支持  
3日間でfacebook上で朝日記事のシェア(1万8747件)、Twitterでも幅広い楽しい反応

- ・理不尽な死に方をした悪いの霊魂と置かれた人々の居たまれない悪いの霊魂が、悪くは人間に心霊的な現象を見せるのだらうと考えられる。記事にもあるように、恐ろしい体験でなく後悔すべきものとして感じることがポイントであり、そこには死者に対する哀しみが込められているたれがーさん(男性 愛知県)/ライブドアブログ/1月31日
- ・未曾有の災害の悲しみを乗り越えた方々の心のあり方と強さが若い方々のフィールドワークによる論文にまともられています。メディアのみでは知ることの出来ない、震災への感情と辛い心霊での家が被災地の方々のリアルな心情を伝えてくれます。yengo/30-NETブログ/2月8日
- ・最初の章から、裏が止まらず、これは読み続けるのに一月くらいかかりそうです。命というものの重い愛情を私達は忘れていないのです。一人の死には、その人生だけでなく、その人生に交差した実在した人々の人生がかかわります。多くの涙と悔念と後悔が、愛情の中に無数の星のように輝きます。幽霊が存在するかどうかの節ではなく、無理やり読えねばならなかった人生の、命の概念と、それを乗り越える強さの復讐が、そこにあると思います。野田@メンタルコア/アマゾン/1月31日
- ・自分以外の誰かを認め、その幸あんなことを願う心の向こうに、自分自身の幸への確信が生じる事がポジティブな効果にあるとするならば、東北で書かれる幽霊話は、まさに、その地が強く立ち上がろうとしている証ではないかと思えるのです。
- ・一善異昧をひくのが、震災以後語り継がれる幽霊話です。怖い? 雰囲気悪い? とんでもない、深い感動を覚えます。
- ・『呼び込まれる霊性の震災学』読了。休職は学部の生論文集だが、内容はむしろ「いとみの神学」とでもいって良いでしょう。目録が難慮どころが心に響く。Daniel Cori コール ダニエル@DanielCori / 2月11日

17



18



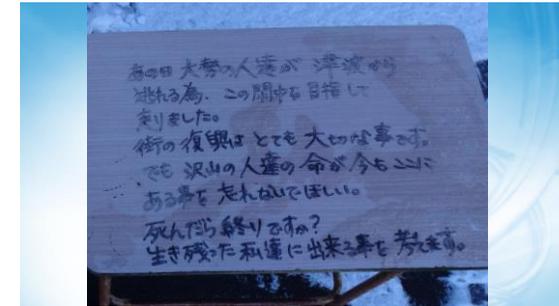
19

**根源的な問い**  
果たして私の愛する人は、ほんとうに逝ってしまったのか？

“行方不明”者  
↓  
肉体の滅却を確認できない！

「(自分がこれから)自殺するとあの世で母や息子と暮らせないから、誰か崖から突き落として(殺して)くれないかな」  
「今日は息子と母の一周忌法要。遺体すら見つからないのに一周忌法要をしなければならなくて、正直今も戸惑って受け入れられない自分がいます」  
「もうすぐ6年が…… 実は、いまだにアナタがもう帰ってこないってことが信じられないよ……」

20



21



22



23



24

主人公・新一の行動には里美は驚く  
子イヌの亡骸をゴミ箱に捨てる新一  
里美は新一を激しく非難  
新一は何がいけないのか理解していない様子

「清掃の人がこまるかな？」

「もう死んだんだよ……死んだイヌはイヌじゃない  
**イヌの形をした肉だ**」

25

リン酸カルシウム論  
亡くなった人間は、単なる物質という側面から扱えば単なる骨

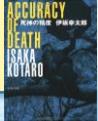
『死神の精度』伊坂幸太郎著（文藝春秋，2008年）

そう言えば、くだんの床屋の主人は、「死ぬことが怖い」と言ったこともあった。私はそれに対して、「生まれてくる前のことを覚えているのか？」と質問をした。「生まれてくる前、怖かったか？痛かったか？」

「いや」

「死ぬというのは、そういうことだろ。生まれる前の状態に戻るだけだ。怖くないし、痛くもない」

人の死には意味がなくて、価値もない。  
つまり逆に考えれば、誰の死も等価値だということになる。  
だから私は、どの人間がいつ死のうかが、興味がないのだ。



26

人間たらしめるもの  
人間と動物を分けるものとは？  
(サル)



27

死者への配慮

墓を作り死者に花を手向ける

死者との向き合い方に苦心  
葬式、供養など

「亡くなると終わり」にならない・・・  
モノや数値として死者を扱うことに違和感  
代替不可能な「その人だけの死」(中島義道)

死者に対してどう向き合っているのか  
大震災の現場から考える



28

タクシードライバーによる幽霊との邂逅

体験談 1  
S.K. 56歳男性

震災から3か月くらいたったある日の深夜、石巻駅周辺で乗客を持っていると、初夏なのにもかかわらずファーのついたコートを着た30代くらいの女性が乗車してきたという。

目的地を尋ねると、「南浜まで」と返答。  
不審に思い、「あそこはもうほとんど更地ですけど構いませんか？  
どうして南浜まで？コートは暑くないですか？」と尋ねたところ、「私は死んだのですか？」

震えた声で応えてきたため、驚いたドライバーが、「え？」とミラーから後部座席に目をやると、そこには誰も座っていなかった。



29

タクシードライバーによる幽霊との邂逅

体験談 2  
K.H. 57歳男性

2014年6月のある日の正午、タクシー回送中に手を挙げている人を発見してタクシーをとめると、マスクをした男性が乗車してきて、服縁や声から青年といった年相好だった。「でもねえ、首好が何でか、俺の相好だったんだよ。」その青年は、真色のダブルコートに身を包んでいた。

ドライバーは目的地を尋ねると、「彼女は元気だろうか？」と応えてきたので、知り合いだったかと思い、「どこかで会食したことはありませんか？」と聞き返すと、「彼女は」と言い、気づくと声は静か。

男性が座っていたところには、リボンが付いた小さな箱が置かれてあった。

ドライバーは未だにその箱を開けることなく、彼女へのプレゼントだと思われるそれを、常にタクシー内で保管している。



30

幽霊譚の“リアリティ”を支えるもの

- 対象との具体的なコミュニケーション（会話・接触）
- 実車へメータを切る
- 運賃の肩代わり
- 運転日報や自身の日記
- GPS・無線
- 残されたプレゼントの箱



(撮影：金原博)

31

幽霊との邂逅の反応

体験談 1  
S.K. 56歳男性

最初はただただ怖く、しばらくその場から動けなかった。  
「でも、今となっちゃ別に不思議なことじゃないな〜。  
東日本大震災でたくさんの方が亡くなったじゃない？  
この世に未練がある人だって当然だもの。  
あれ（乗客）はきっと、そう（幽霊）だったんだろうな〜。  
今はもう恐怖心なんてものはないね。  
また同じように季節外れの冬服を着た人が  
タクシーを持っていることがあっても乗せるし、  
普通のお客さんと同じ扱いをするよ。」  
ドライバー：微笑んで言った。ちなみに、  
このドライバーは震災で娘さんを  
亡くしている。

東北大学大学院の記録「心の安全（安全文化センター）」編  
[聞き取られる霊性の震災学 3.11と心のほろ苦さ]（数見比、2016年）



32

幽霊との邂逅の反応

体験談 2  
K.H. 57歳男性

「ちょっとした噂では聞いていたし、  
その時は“まあ、あっても可哀なことではない”と、  
震災があったしなあと思っていただけ、  
実際に自分が身をもってこの体験をするとは思っていなかったよ。  
さすがに驚いた。それでも、  
これからも手を挙げてタクシーを持っている人がいたら乗せるし、  
例えまた同じようなことがあっても、  
途中で降ろしたりなんてことはしないよ。」  
いつかプレゼントを返してあげたいそう。  
このドライバーは震災で母を亡くしている。

東北大学大学院の記録「心の安全（安全文化センター）」編  
[聞き取られる霊性の震災学 3.11と心のほろ苦さ]（数見比、2016年）



33

★工藤さんインタビュー

34

幽霊に対する意味付け

- いずれの場合も、肯定的好意的
- 当初怯えていた彼らも、“畏敬の念”を持つ
- 無念の想いを持ち、直接行き先を言える  
タクシー（媒体）を選択



35

無念の気持ちを掬い取る

- 匿名を条件に話者に対して開示
- 「嘘だと（周りから）言われて  
彼ら（靈魂）の存在を否定されてしまうから」
- ✗ 危害を加えたり崇りや恨みをもつ存在
- 静寂な気持ちで無念の気持ちを掬い取る  
「イタコ」的存在

36



37



38



39



40



41



42

「3.11 慟哭の記録」

- 約半年以内の生々しい記録
- 当初の目的=人類の災害の記録
- 文字だけで綴る記録 (50万字超える文字のみ 540頁)

Q 聞き書きと手記の違い??

- 当初の意図とのズレ
- 当事者にとっての意味=大切にしている

43

サバイバーズ・ギルト症候群 (強制収容所シンドローム)

戦争や災害の時に典型的に現れる心の状態

ホロコーストの生き残り、ベトナム帰還兵、災害の被災者

慢性的不安・抑鬱・社会的ひきこもり・悪夢・不眠・  
 愁訴・疲労・情緒不安定・意欲減退・全般的適応不全 など

「ただ生き残ることに信じたいほどの代価が払われ、  
 死の刻印と非責感をもち、深刻な精神麻痺状態にある」  
 (ビヴァリー・ラファエル「災害の襲うとき」)

44

トラウマと記録筆記法

強烈な映像 → 記憶の抜け落ちで断片的  
 時系列に配列 → 記憶の埋め戻し



- 記録筆記法 = 5W1H  
 Why 亡くなったのか? ⇒ (変換) ⇒ How に亡くなった
- 被災者が災害の経験の事実をもとに書きつづけていく手法  
 + 一人で書いて何度も推こう ⇒ 反すう性と客観性 (死の認知)  
 鈴木志帆さん「そこにいた」→「そこにあった」

45

なぜカウンセリングを忌避するのか?

遺族の反応

「前に進めないのは、この痛みを(カウンセリングに行って)治してしまったら、その痛みも苦しみも消えてしまふんじゃないかという気持ちがある。でも私がすっきりしたら、お父さんを忘れてしまうことになるじゃないですか。(この痛みを)消したいし消れたい、そうならなきゃいけないってわかっていけども、それが罪悪感になったりするの前進できない」

→ 死者を置き去りにした解決策に「抵抗」

「いつでもこの本(記録)を開けたら生きている」  
 「本だったら(息子が)生き続けることができる」  
 小原武久さん:辛い思い出 → 息子と向き合える時間。不思議と息子がそばにいる

46

「痛み温存法」

震災から時間が経ち、世間が日常に戻っていく中で、私は「あの、あまりにも苦しく悲しかった震災後の日々」を、自分は絶対に忘れてはいけないという一種の強迫観念のような思いと、それでも悔れ、泣いてしまっ自分の記憶や感情の狭間で、とても重苦しい葛藤を感じていた。

記憶と正面から向かい合っ、再び痛いほどの悲しみに引き込まれるのがこわくて、いろんなものを心の底に押し込めて、目をそらして放置していたような状態だった。それでも今回、苦しみながらも、しっかりと記憶と向き合い、それらを自分の身体の外に、文字として出して、文章として保管する「痛み温存法」も思いついて思い出せる形にすることが出来た。

もう「震災のこと」を忘れておからなくってしまっことはないんだと思っただけか、何だかほっと安心して、きつうと固まっていた心がほぐれていくような気がした。被災者としての責任感から、どこか解放されたような心持ちだった。

『鈴木志帆』『震災を生き残った人々の思い出』

47

痛み温存法

- 書き残すことは、残された遺族がこんなに愛していたことを刻みつけておくメモリー (=死を想う)
- 心の痛みは、消し去るべきものでなく、むしろ抱き続けるべき大切な感情

痛み温存法と記録筆記の手法

- × 痛み解消によって、家族を忘れる不安を抱える
- 筆記を手段として、愛する家族と供に在るリアリティを得る

→ 死者 ⇒ 「生ける死者」(若松英輔)

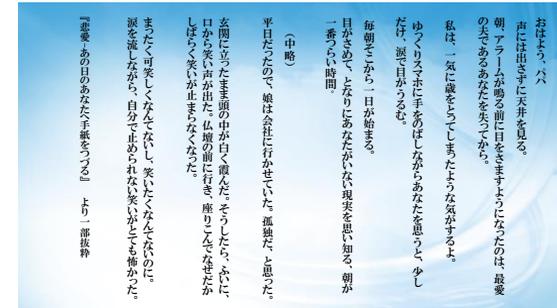
48



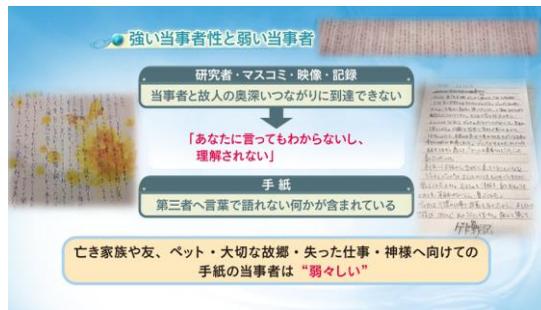
49



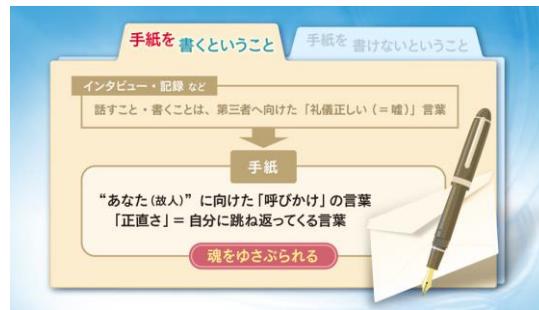
50



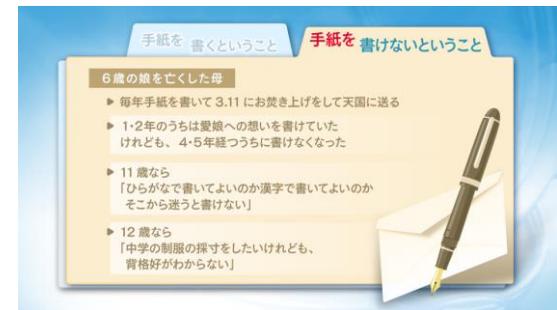
51



52



53



54

【読者の心のあたった手紙】『奇』 一郎 田代純

瓦礫の中から変わり果てた愛梨を見つけたことが出来、真つ黒く赤ちゃん位の大きさになっていて表情すら読み取れない位に変わり果ててはいたけど、愛梨だとママもパパもわかつたよ。

本当はね、ママもパパも愛梨を思いっきり抱きしめてあげたかったけど、抱きしめたら愛梨が壊れてしまうから抱きしめてあげる事が出来なかったの……

抱きしめてあげる事すら出来ず「あんね……本当はギョッと抱きしめて」頑張ったね……って言うてあげたかった……

……せめて、愛梨を抱きしめてあげながら一緒に旅立ってあげたかった……と思います。

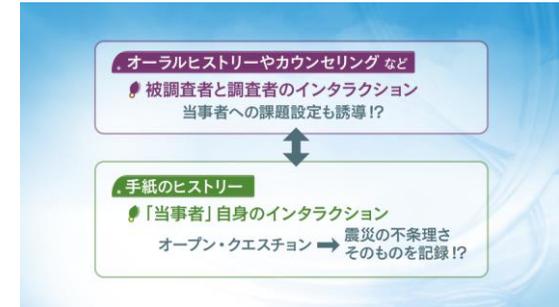
55

手紙を書くということ      手紙を書けないということ

妹を亡くした女性

- ▶ 前を向いて地域のまちづくりに奔走していた時期（5～6年）
- ▶ 手紙の依頼を受け、迷う
  - 涙も乾いた思いを経験して「強い」と思っていたが、亡き人への手紙を提案されて<sup>悩</sup>悩
  - 悲しいとか大変とか当たり前の感覚で、自分だけが辛いとか言えるのは嫌だが、誰かが自分のような思いをするのも嫌
- ▶ 依頼を受けて<sup>悲しみの現実</sup>に蓋をしていたことに気づき、「手紙を書いたら、あの日の悲しみに戻って前に進めない」という不安

56



57

感情経験の世界への纏り込まれ方

手紙の書き手

受け取る相手は、二人称「あなた(亡き人)」であり、第三者である見ず知らずの読者ではない

手紙の読み手

私事の出来事 ⇒ まるで二人称である亡き人の立場になって言葉を受け取り、その人自身に感情移入

「寄り添う」ことを超えた立場の境界と“強い”当事者性の化解

58

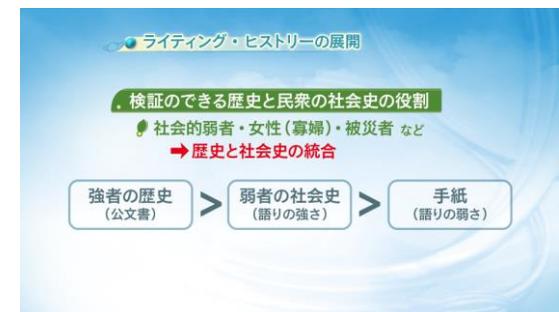
ライティング・ヒストリー

調査者の介入      抑圧の解除へのエンカレッジ

調査内容への不介入      手紙による三人称の排除

当事者のなかですら伏せられた無意識（抑圧）に対してそこにある（実証できる＝歴史学／オーラルヒストリー）以上の事実を調査者の介入を必要としながらも、それを無効にし当事者自身が自らの手で意味のある「歴史」（災害そのものを理解可能なものにする実践）として刻むことができる

59



60



61



62



63



64



65

『私の夢まで、会いに来てくれた』  
東北学院大学震災と記録プロジェクト編 朝日新聞出版、2018

- 震災遺族と夢のみを集めた記録
- 27編
- 2016年11月～2017年11月
- 東北学院大学ゼミ3年生および2年の実習
- 聞き取り→校正編集まとめ→所収
- 心理学用語での理解の排除

「すべての夢が  
読む者の魂に触れる」  
いとうせいこう、絶賛

66





### 復興過程の時間の相対化

われわれの時間の「前提」= 過去 → 現在 → 未来

小学校がHPから亡き息子の画像を通告なく削除  
泣きながら電話をかけ「ヨシムネは、もう学校とかにいなかったことにされたんですか」と尋ねると、「亡くなった子が写っている画像は削除しろと教育委員会から通告があったので…」という回答を聞いて、ショックで過呼吸  
⇒「生きていた」証を抹消され、最初から「いなかった」ように扱われる

⇕

故人の時間の「前提」を超えた関係 = 過去 → 現在 → 未来 (タイムマシーン)

夢の写真では、背や足がすらすらと伸びて中学生のような恰好  
⇒ 故人との関係の更新 = 交信

79

### いまはむかし

能楽 (夢遊)

ワキ (旅人): 生者の時間が優位  
シテ (幽霊): 死者 → 能面・夢  
タイムマシンのように過去・未来を自由自在に駆け回る  
過去の人が「いまはむかし」という形で侵入

↓

異界と出会うことによって、人はもう一度「新たな人生を生き直す」ことができる

ワキ: 「願行する時間」      交錯  
シテ: 「進行する時間」      「永遠」の実感

安田謙著「異界を渡る船」(筑摩書房、2017年)

80

### あわいの指定

あわい = 間

此岸と彼岸の中間的な領域  
「いつかどこか」⇒「いま、このとき」(現在進行形)  
能楽「いまはむかし」詠りの重要性 ⇒ 永遠性 = 人々の実践

夢や幽霊の亡き人との遊逸  
時空間観念を覆ませる ⇒ 緩やかな死の追慕を生きることを可能にする

⇕

即座の死の追慕 (近代的時空間の管理)  
三崎蓮紀・いとうせいこう **震災後文学**

81

### 内側からの見えない祈り

手をいまだあわせられない

A(女性)「友達から、「明日はご両親の命日ですね」とメールが来て、むっちゃ腹立った。「違いますって」っていったやっただけ。→宮城を離れた

B(女性)「わかる気がする。えてって思っ。おらいの人達はまだ見つかってないわけだから。心のどこかで生きてかなくて、0.何%くらいまだ思っている時とかあるから。それを人に先に言われたり、死んで何年目って言われると頷くくる」

2018年3月11日

河北新報

82

### 生ける死者 = 協同する不可視な「隣人」

「死者をめぐる悲しみとは、生者の感情の起伏ではありません。死者が生者の魂にふれる合図です。」 p.25

「『悲しみ』を、こんなにも惨めて、慰めもない、救いのないものにしてしまったことも、現代の大きな誤りだと思います。」 p.49  
(若松英輔「死者との対話」)

「死者と共にあることは、思い出を忘れないように毎日過ごすことではなく、むしろ、その人物と共に今を生きているということではないだろうか。新しい歴史を積み重ねることではないだろうか。『死者』は肉眼で「見る」ことができない。だが、「見えない」ことが、実在をいっそう強く私たちに感じさせる。」 p.49  
(若松英輔「魂にふれる - 大震災と、生きている死者」)

言葉でつづる ⇒ 「死者」との応答の場の創出

83



84